

編輯部報情閣内

寫真週報

第十四号 四月二十日

昭和十三年五月十二日 第三編 第三十号 昭和十三年四月二十日發行 (編輯部大塚日野) 第十號



黒潮に鍛へる
国防第二陣



艦は飛龍をあげて
大砲を撃つ

觀光滿洲

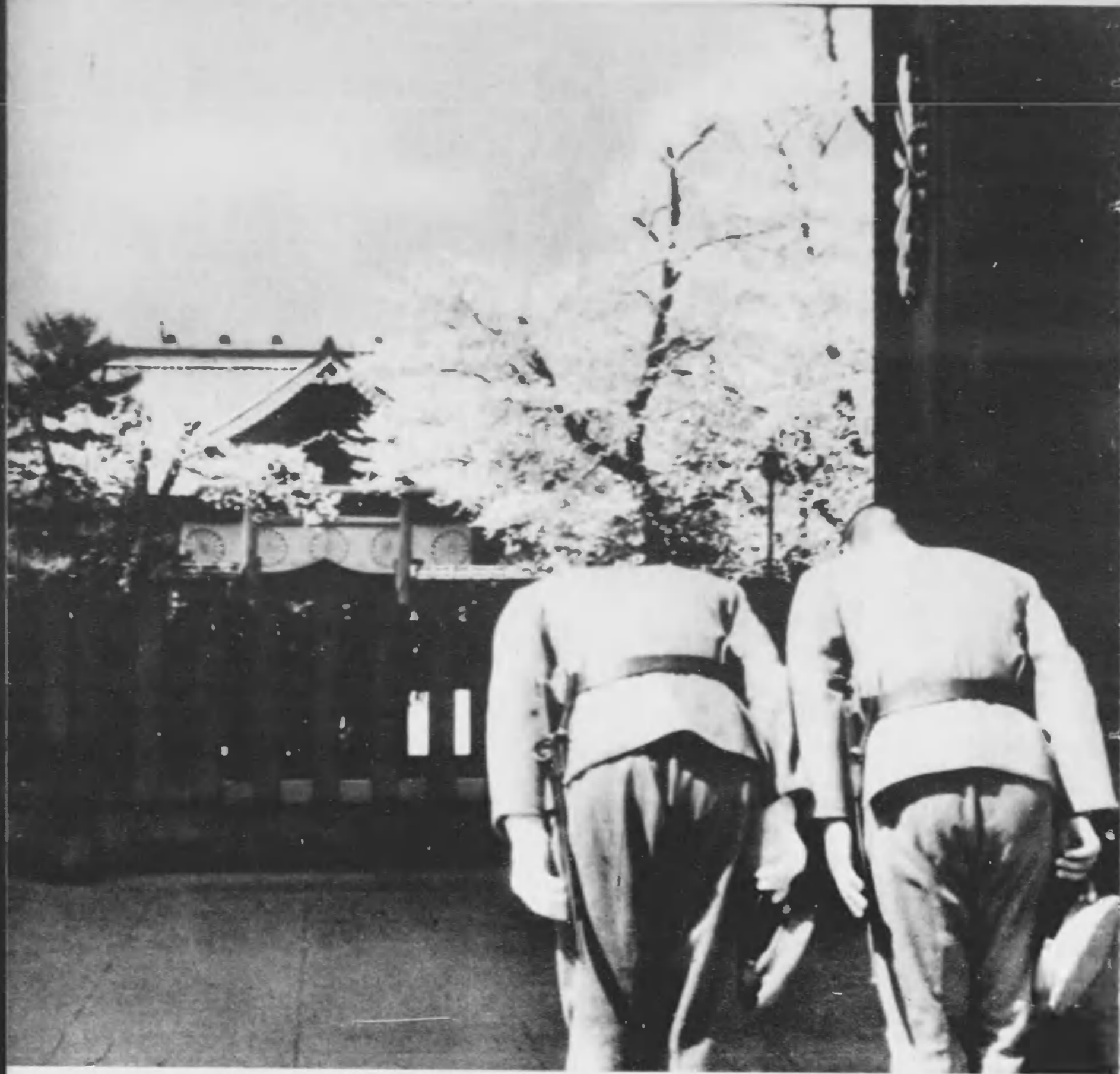
内地・朝鮮より
往復・回遊汽車賃
 單 獨 …… 二 割 引
 團 體 (十人以上) …… 三 割 引
 (廿人以上) …… 四 割 引
 學生團體 …… 五 割 引 以上

詳細は…
 滿鐵鮮滿案内所へ
 東京丸ビル 同赤坂葵町
 大阪堺筋 門司税關前
 下關駅前



滿鐵道總局

新洲北の萬里長城



櫻花のもと 芙蓉水へに眠る

今大東亞に祖國のため戦線
 の華と散つた皇軍將士の英靈
 四千五百三十三柱を合祀する
 神祇の神國神社臨時大祭は、
 四月二十四日の招魂式に引續
 き二十五日から三日間厳肅に
 行はれる。
 長くも 天皇皇后兩陛下に
 は、二十六日神國神社に行幸
 啓、英靈に御慰勞遊ばされる
 御尊定と承はる。



徐州方面
敵の鼓動を聞く

卷麻城南門を猛撃する赤米部隊
砲撃に次ぐ砲撃、敵陣を抜く富田部隊



嶺雲霧々、夜界河を渉る
張莊附近で進撃する我が部隊から通信
筒を吊上げる我が飛行機

一週報第七十八號（公見莊
落つ）の記事参照

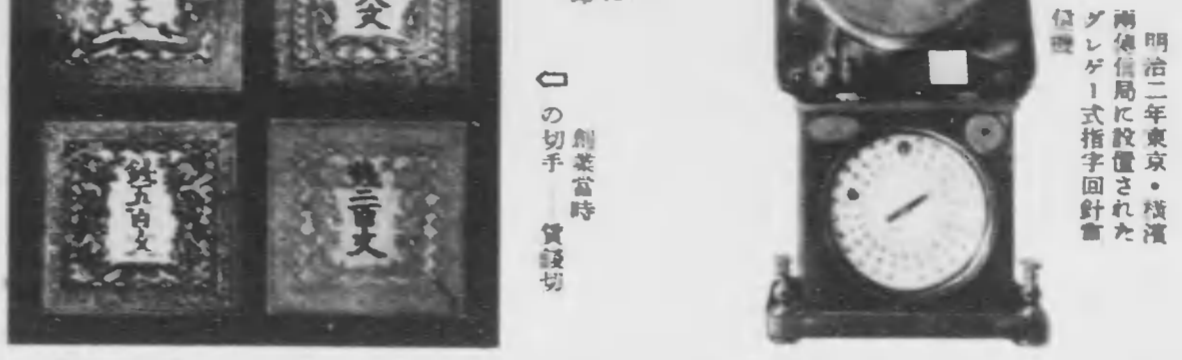




↑ 郵便創設当時の郵便旗
明治五年、前島暲通の提案で横濱入りの日の丸を乗馬集配人の菘山登と洋服人最初で横濱に郵便馬車や伝小旗をつけた。この郵便旗は、明治二十年以来、郵便省の頭文字を片假名で表した「逓信旗」として用いられた。



安政元年コムモデル・ペルリが携行専府に寄贈したモールス式印字電信機



明治二年東京・横濱郵便局に設置されたグレゲリー式指字回針電鐘

逓信の回顧

四月二十日 逓信記念日

四月二十日は逓信記念日である。今から六十七年前、即ち明治四年四月二十日、我が國に新式郵便制度が頒布された。越えて昭和九年逓信特別會計の獨立を機會にこの日を逓信記念日と定め、二十四萬の従事員は毎年この日に斯業の礎石を築いた先達の苦難を回顧し、ますます一致奮起逓信報國の實績を奮ふことを誓ひてゐる。

明治四年、維新の大業は漸く成つたが未だ藩制は新舊と交ぜ混在した時代、郵便なども昔からの飛脚が頼りたつた時代であつたが、新式郵便制度はこの飛脚制度に一大改革を加へ、従来江戸・京都・大阪・東京までの運送に四十五日乃至五十時間を要したものをこの時からは東京は三十六時間、大阪は三十九時間といふ當時では驚異的なスピードの運送が實現したのである。當時これを呼んで「飛脚の飛脚便」として感心したものであつた。

東京、京都、大阪間に新式郵便を開始した當時、郵便送付場所は東京上野、京都七ヶ所、大阪八ヶ所と指定し、郵便局（現在のポスト）を出し、切手を買付、郵便を出すのは三種郵便投函や郵便面、又は近くの切手買付所や郵便局で買付したものであるが、この買付切手はより入らず、郵便料金の納めが郵便切手として、四十八文、百文、二百文、五百文の四種が發行された。郵便を差し出すものはこの切手を購入し、信筒の裏面に貼付して、小札に宛先の姓を、自分の姓名を記して差出したのである。

この郵便送付は一日一回東京と大阪から相互に發足したものであるが、江戸時代は東京大阪間が早稲で三日を要し、料金は二十三兩といふ高値のものであつた。これが僅に三十九時間、而も料金は一貫五百文といふ從來の何十分の一にも減らぬ、果しものとなつたので却つて不安を感じ、事業の永續するかどうかを疑つたといふことである。

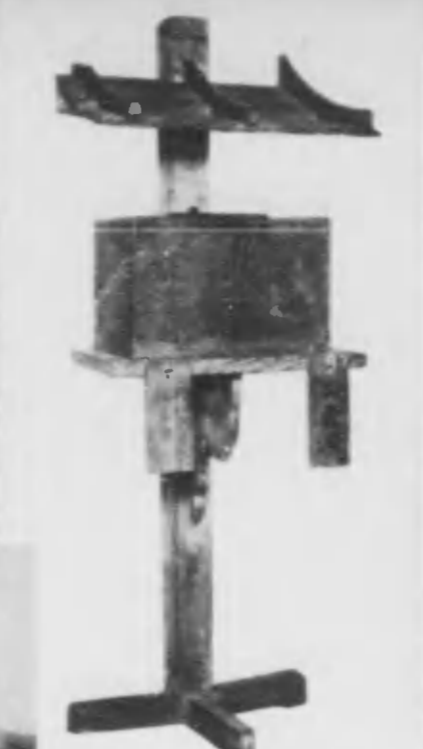


↑ 明治八年一月一日米國との郵便條約が實施され、初めて諸外國との通信の途がひらけたので、八日には横濱郵便局で外國郵便の開業式を行つた。

電話は明治二十三年やうやく東京、横濱に交換局ができた。口局には單式交換機三座をそなへた。



↑ 我國最初の無線通信装置。明治三十年十二月はじめて無線電信の公開實驗が東京品川島と海上第五臺場との間に行はれた。



↑ 明治四年東京、京都、大阪の三市内に設けられた郵便ポスト（書狀箱）で目安箱に似てゐる。



↑ 郵便車（逓信省の前身）明治五、六年東京日本橋區西川町四丁目所在の徳川幕府の納屋を改修したもので中央扉木門が郵便車の正門、左方が四日市郵便役所の窓口

明治二年十一月東京横濱郵便局の郵便物の運送の様子

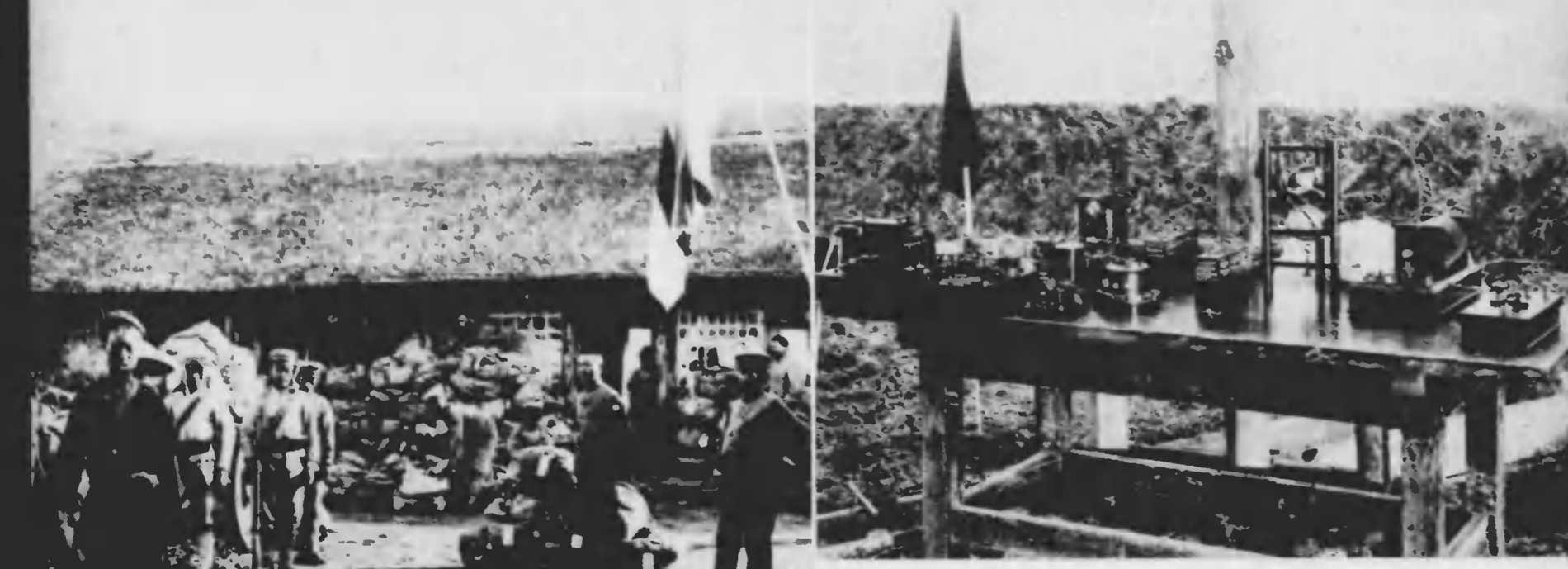
明治二年十一月、東京横濱郵便局の郵便物の運送の様子。馬車や人力車などで郵便物を運送する様子が見られる。

↑ 郵便物の運送の様子

同年七月、八月には横濱、神戸、長崎、函館、新潟の五港に郵便役所が設けられ、十二月には東京、長崎間に百八十時間、郵便便路が開通し、翌五年七月には全国的に郵便便路が開通し、翌六年にはハガキが發行された。八年には郵便貯蓄、貯金の取扱を開始し、十年には逓信郵便に加入して國內のみならず國際的にも郵便を交換し得ることになり、郵便事業の基礎は漸次確立して、郵便が政治、経済、社會文化の發達に大きな貢献をするに至つた。

この郵便制度の確立と並行して、電信や電話も明治の黎明に早くも姿を現してゐる。電信は、安政元年ペルリ提督が幕府の時に、東京から横濱間に電信線を敷いた。電信の運送に始まるが、明治二年の末東京と横濱間に電信交換設備を設けて一般公衆電話業務を開始した。當時兩局の加入者は僅かに二百八十五名に過ぎなかつたものであるが、今日では全国に約百萬を算へるに至り、朝六夕六の感に堪へないものがある。

無線電信は、わが國で無線電信の通信を實現し始めたのは明治三十年で、マルコーニが電線なしで通信出来ることを確證してから僅かに二年後である。それから二年過ぎ三十二年には逓信省の技術者によつて東京横濱間で一連の通信に成功し、その翌年マルコーニが三十種の通信に成功した時は日本は一先先に遠距離通信に成功し、かくて年々研究の結果、明治四十一年無線電信の取扱を開始したものであり、無線電信は四十五年同じく逓信省が世界に於て最も早く試験に成功してゐるが、斯様に我國が無線科學に歐米諸國より先鞭をつけたことは我國逓信技術の優秀を實證するものであらう。



↑ 明治三十七年二月、日露開戦と同時に直ちに野戦郵便が組織され、南滿洲及び樺太一帯に活動し、野戦郵便旗は戦場の地に一道の光明を放つた。



鍛へるへ 陣二第防國



てし乗便に丸成大の下斐事
船習練校學船商等高京東

四面皆海のが日本!
天賦に乏しく、資源と市場を、つねに海外に求めなければならぬ日本! 大和民族發達の歴史は、いつも、大海原を越えて、そのたくましい觸角を伸ばしてきた。
今、亞細亞の平和と繁榮の爲に起つた我々大和民族が、次に擔はねばならない使命は、日本や、亞細亞を圍む海洋を、しっかりと日本の手に収めることだ。
その爲には、商船隊を、もつと、もつと充實しなければならぬ。
商船隊は、平時の貿易經濟、文化の傳播の爲にはかりあるのではない。前線の際が安心して戦闘が出来るのも商船隊が、戦線と後線を結ぶ橋になり、大切な後部戰線の任務を、しっかりと覆つてゐるからだ。
今、日本には、五百萬噸の商船隊があり、五大洋に到る所に、日軍旗を懸へし、白波を蹴立てて國威を發揚してゐるが、此の益々増大する海の威力と同時に、船を動かしてゐる海員、船の生きた精魂力となつて活躍してゐる船員の勇を立派に育てやう。
海へ! 海へ!

シマン・シップの清潔は、先づ甲板を愛護から、朝、洗面より、先づ甲板を洗ふのが、マド羅斯の身だしなみ。海水と砂で洗ひ、椰子の實で磨き上げたチーク材の木理も美しい甲板を、裸足で踏む感觸は爽かだ。

推れる甲板を踏みしめ、大洋のまん中で校歌を合唱すれば、なつかしい故國の校庭が眼にぼやけ、故郷の父母は今何を想ふ? 女々しい感傷を吹き飛ばせ、吹き飛ばせ! と、聲を強りに校歌を歌ふ。

伸びる日本の旗先に立ち、やがて藍里の波濤を越えて日の丸の旗を進める、海の子! 雄々しい海國男子は、コンパス

はすべて楽しい。
神祕の海を大々と解く科學、児童と無慈悲の海を征服する機械科學の冒険。
強靱の身體を養ふ、武道、スポーツ、眞白な三角帆を張つて海をよすサカタの練習。
磨かれる理智、強靱な力。青年の抱く憧れのすべてで満たされる毎日。かうして、総合教育が終れば、次は、一ヶ年の練習船教育がある。
練習船! 各商船學校には、海の若人の誇りと憧れを、白帆一杯にはらむ練習船がある。
日本の誇り、海員の輝く傳統が、チー

の練習も誇りかた商船學校の生徒だ。
わが國には、東京と神戸に二つの高等商船學校があり、富山、三重、鹿児島、山口、愛媛、香川、廣島、岡山、の各地方に、八つの私立商船學校があつて、他の學校には見られない、素晴らしい「海の教室」で、船の科學、海のロマンスに青春の熱情を傾けてゐる。
卒業と同時に、海軍豫備將校に任用される高等商船學校は勿論、地方商船學校生徒の生活は、起床から就寢まで、厳格な規律で貫かれた共同生活の中に練へられる。
然し、生徒にとつて、毎日毎日の目録

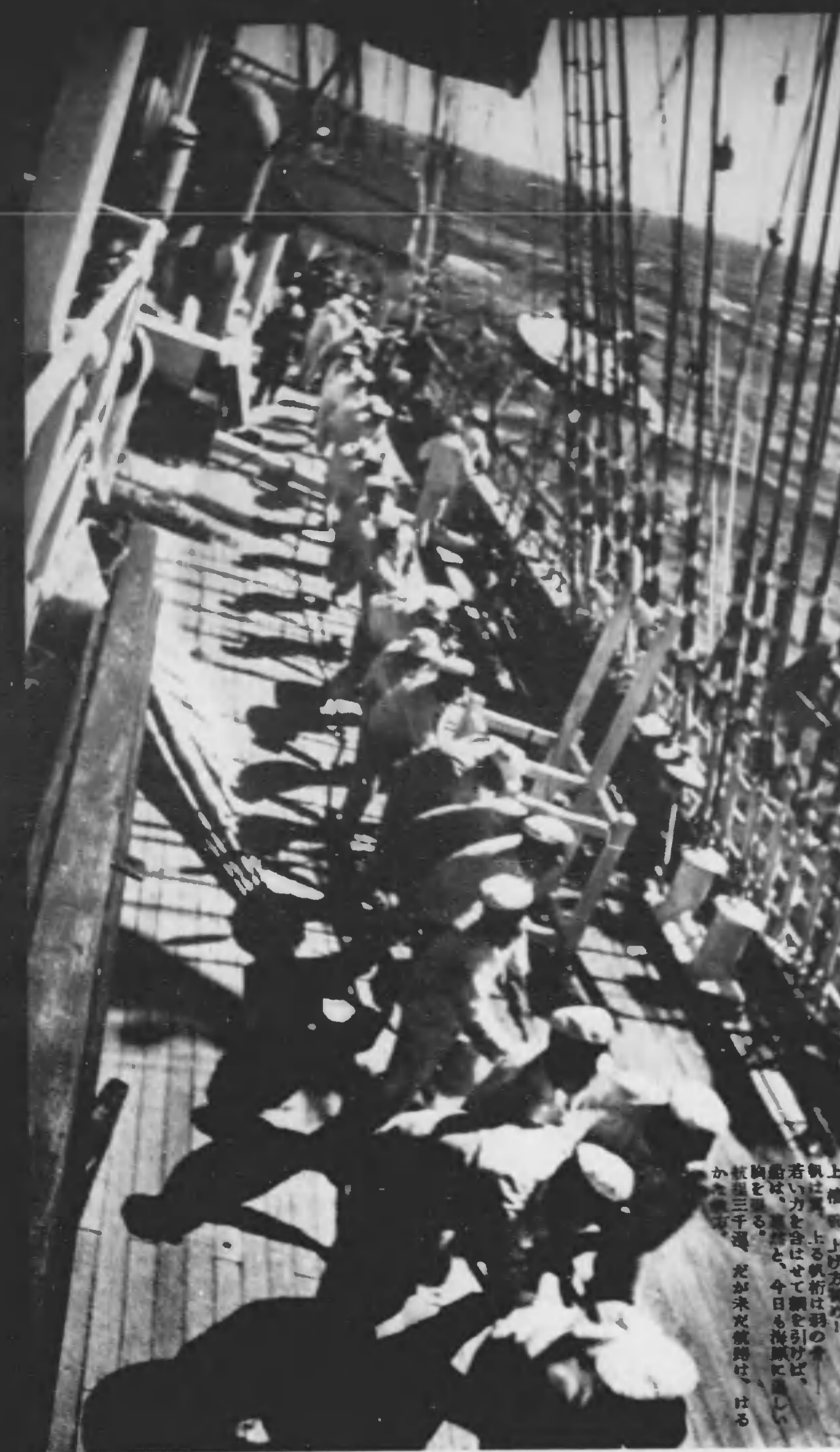
出帆、船出、静かに帆柱を何きながる、船を揺るば、胸の中で、何が燃ゆる、さようなら

黒潮に鍛へよう!
縦桁に日軍旗を懸へし、出港用意の喇叭を吹々と響かせて、奥島立つ「青春日本」の英姿。
海に生きる人生が、將に大洋へ向つて開かれる胸の感觸こそ、そのまま、一鵬の美しい時でなければならぬ。
咆哮する西風の三角波を征服、北洋に、灰色の霧をまとつて女のやうに飄々流水と戯ひ、或ひは、貿易風帯に體を追ひ、信風帯(季節風帯)に天上の十字南方十字星を仰ぎ、南洋の島々、椰子の葉を、土人と語り、巡航する航程三萬哩、世界を家とする海國男子は、かうして鍛へられ育まれ、見違へる程立派な海員となつて一年後、久々に祖國へ凱旋の白帆を揚る。

然し、これで卒業ではない。一ヶ年又は一ヶ年半民間商船に乗り組み、實習訓練を経て、初めて、輝かしい卒業の日を迎へるのである。
精魂を傾けた訓練、雄練を積んだ、海國日本の海員こそ、世界無比の海員だ。
海へ! 海へ! 離港日本の若輩を國民皆の手で育てやう。
東京高等商船學校所屬の練習船大成丸は、日本に於ける練習船のバイオニアであり、世界に於ても、練習を目的とした帆船としては最初のもので、去る一月十二日東京芝浦を出帆、マーシャル群島のウオーツゼ島を抵出しにクサイ、トララク各島を廻り、鳥羽港を経て航程六千七百マイル、四月七日横濱に歸港した噸數二千四百二十三噸、四層バーク型補助機関附の帆船で明治三十七年建造、遠洋航海數五十六回、總航程五十六萬哩、養成した人員二千四百人に及び、此の船から輩出した生徒は、すべて海運界の第一線に立つて活躍してゐる。



出帆、船出、静かに帆柱を何きながる、船を揺るば、胸の中で、何が燃ゆる、さようなら



出帆、船出、静かに帆柱を何きながる、船を揺るば、胸の中で、何が燃ゆる、さようなら

はるか水平線の
彼方に沈んでゆく
太陽。半透明の、
清らかな紅色が染
める海洋の夕暮に
ぼつかりと浮んだ
船體。あ、わが
練習艦の海を照
らす英姿だ。胸に
こみ上げてくる感
動をそのまま感じる
手旗信號——「安
航を祈る」

休息のひと時、
奇麗に磨かれた甲
板に腰をこらんで、
青空を仰ぎながら
夕ヒチの舟を想ひ
セント・レナの港
を語る。若いマド
ロス達が抱く旅々
の夢を載せて、今
日も練習船は、
大海原をひた走る。



訓示にも、明
いユーモアが含ま
れて、上陸前の歌
が、甲板に爆発
する。激浪、暴風
と闘ってきた長い
辛苦の航海も、今
日あつてこそ、す
べてを忘れること
が出来ると、眼前に
広がる海に、
もう間もなく、ヤ
はらかい土が踏み
ぬけるのだ。

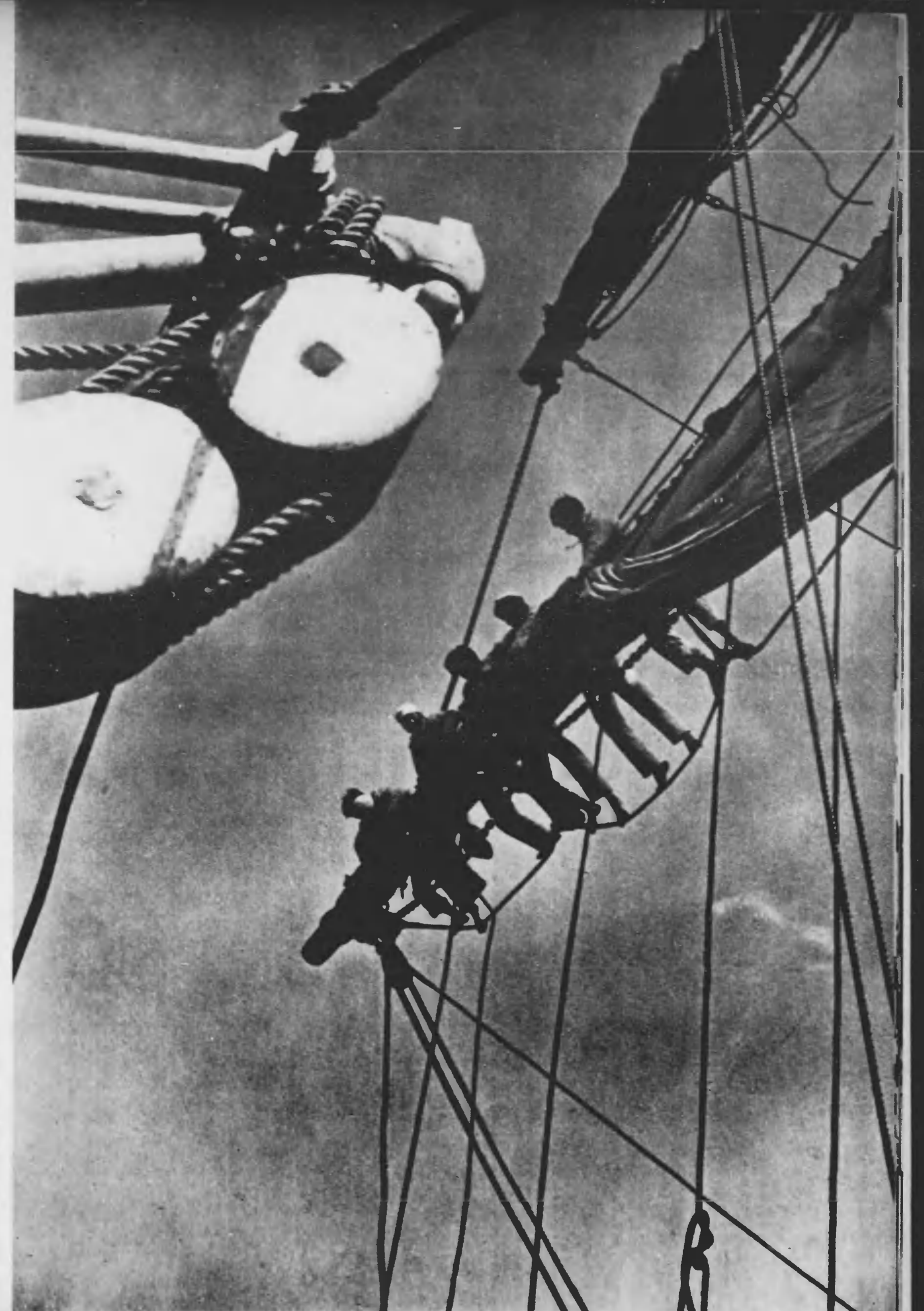
「帆を降して今日
は直士官が見張
りの士官に呼びか
ける。一未だ見え
ないか！—ああ、
未だ見えぬよ、
お前、針路を誤つ
ておられないか。—ふ
さけるな。—」
出て一月、たゞ紺
碧の海と空と、行
きも、間もなく、行
鳥影が現れる筈だ。

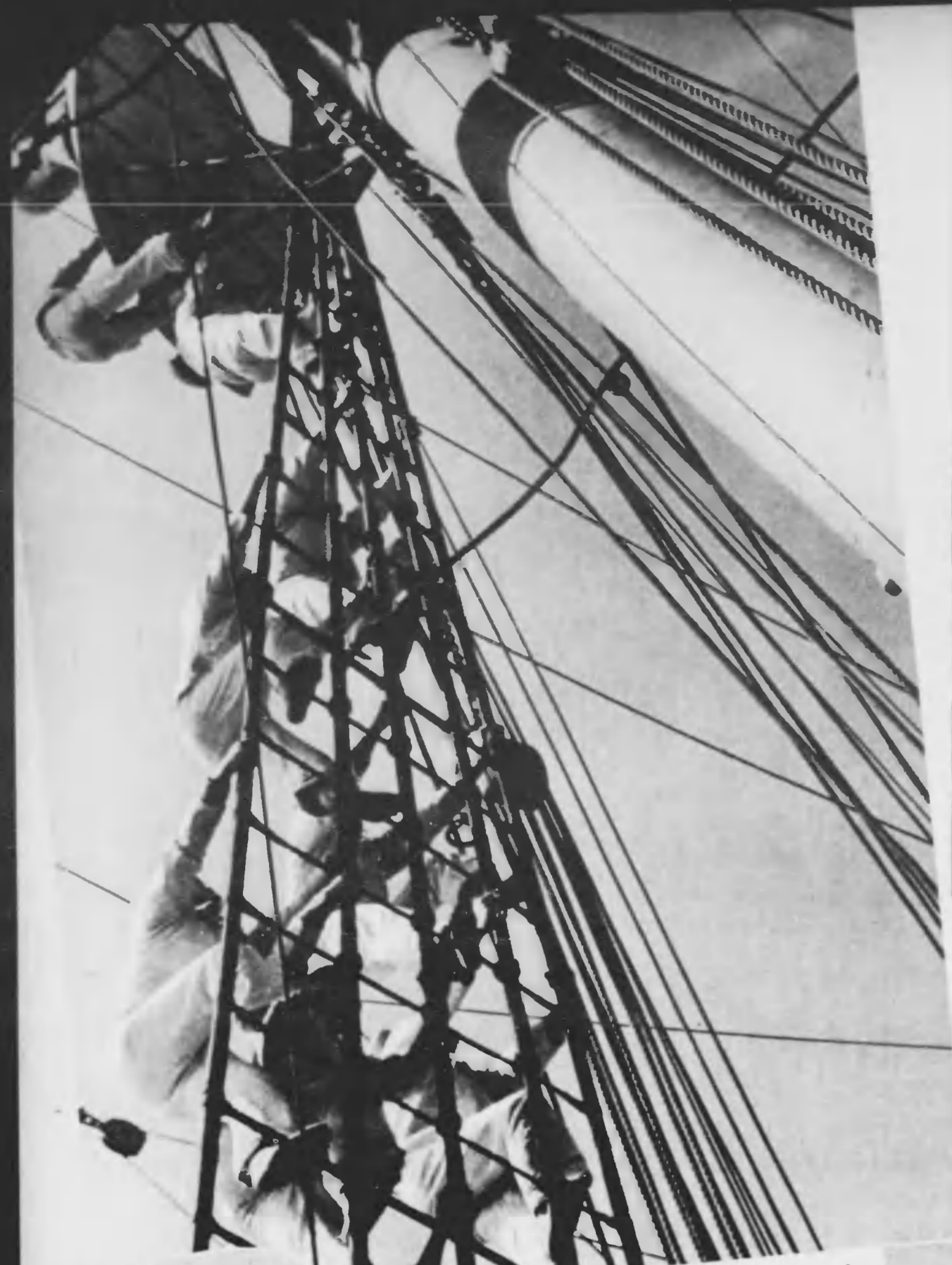
「帆上げ方、初
め！」
就令一、白帆は
風を一杯はらませ
て、ヘッドの帆を
張る。此處は熱帯
圏、船も夏季用帆
で、夏よそほひ。





「故郷出でて三萬里、港に寄るはたゞ三度……」
マストの上を流れる歌聲も潮騒ひて久々に土を踏む
入港！ 前巻帆作業に心もはずむ。
なつかしい様よ、家よ、港のさめめきよ
風は南西に變つた。えつさ、えつさ、帆の角度を變
へる操術家見きだ。毎日綱を握る掌には、たこが一杯
出来てもう一人前の海員になつた。故國の土を踏ん
で、先づ安す、しびれるやうな強い握手が傳はれる。





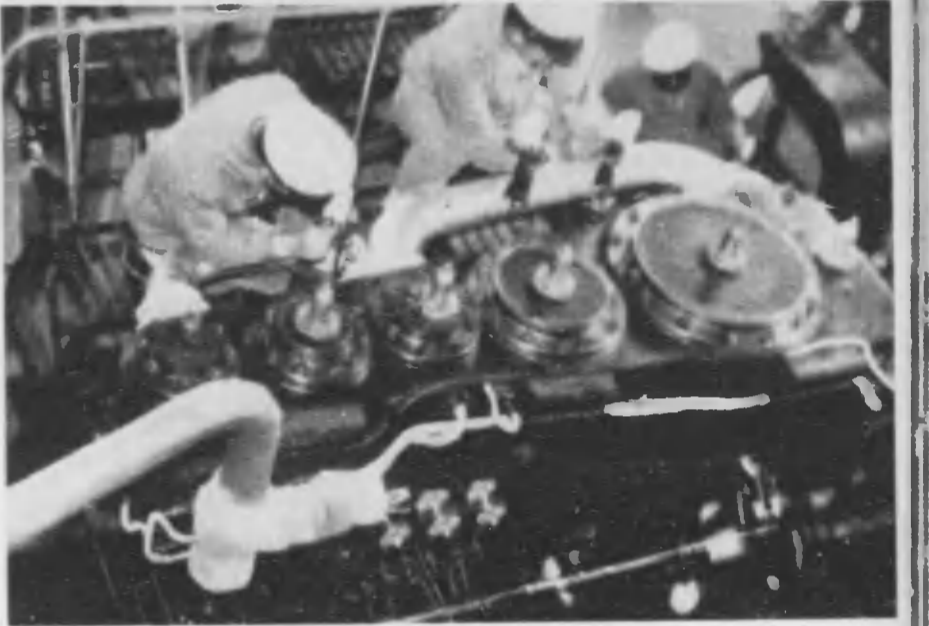
島月區橋京市京東

景風内校

校舎屋上の動かぬ船橋だが、海を富した艦に、今日も楽しい練習が推される。フル・スピード！からん、富貴堂のエンジン・テレグラフ（指令機）が、未来の士官の夢を囁らす。



六分儀で、太陽、星、月の位置を水平線までおろして、高さを知る天測高度観測。ああ、太陽が静かにおりてくる。科学のロマンスを屋上に探れば、船よ、海よ、と、遠い潮鳴りにも響は騒ぐ。



機関は船の心臓だ。船の心臓の秘密は何處にある？三聯成立蒸気汽機のパフォーマンス。



静寂のある處なら雲までも、ましろのやうに華ち上る。度胸なら、海と比べて貰はるか。貰ひたいが、聲留録器には風が無い。「早く、遠洋航海に行きたいな。」

腕はくろがね、船は中型短艇、便等の車、漕ぎ出せ、漕ぎ出せ、あの雲輝く處まで、いつか、水鏡女神の住家まで。



一人一人が體の城。波を乗りきる力とよ。沖から匂ふ潮風がけむつぼくなつた。海も春なら、僕等も春だ。朝の海軍體操。もつと伸びる、と朝の海軍體操。



守れ公徳 やさは義務だ

「かうしてニヤッしろ」と言はれることはあまり無いことではない。言ふ方の態度、言葉を以て言つてくるとそれを押しつけるだけでは親切といへない。言はれる方の側もそれと通解されるだけではない。

るさうでなかか、反つて反感をもつやうになるのは人情である。我々は日本といふ社会に生活してゐる。この社会を築いて住みよきものにしたのは當然我々の理想であるべきだ。我々は社会の一員である以上、その一員としての責任と義務もある。然し義務とはいふやうな、ごく小さなものでもよい、義務を遂行することによつて自ら心たのしく愉快な日々を送ること出来たらそれにしたこととはいへない。それは何であらうか、すぐ我々の手近にある、公徳だ。雑道を、日本観光客等の主権の下にも四月十八日から行はれてゐる。光復運動は戦前の公徳向上を求めてゐる。今、日本は東洋の盟主として、新しい世界の現実のうちに確乎不動の秩序をうち立てるべく、全力をあげて戦つてゐる。日本は世界無比の立派な歴史をもつた文明國だ。我々は文明國民として奮みなくてはならないだけの良心を誇りたい。これは決して卑なる體裁とか宣傳とかだけの問題ではない。總會にも田舎にも、すんでしまふべき公徳がある。人が見てゐて見えてゐなくてもよい。自貢した社会意識から自然に湧き出るものとして現れるのが本来の目的である。未嘗有の盛況たる紀元二千六百年祝典も、さらに國威を世界に誇揚すべき。リンピック東京大會も二年後に迫つてゐる。今からでも、おそくはない。今一段公徳心にめざめやうではないか。



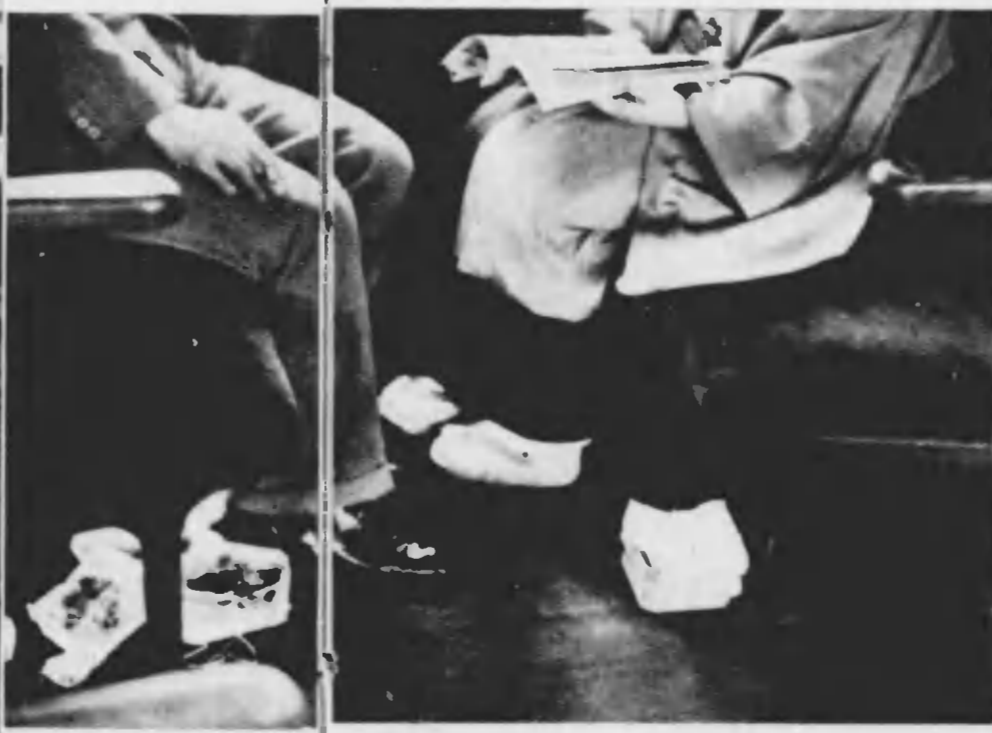
↑ 頑張りも所と場所をわきまへよ。説明はなくても明瞭、お互ひにツクしませう。

↓ 時間の空費は誰しも嫌ひます。然し、皆が我れ勝ちに先を争へば結局皆が嫌な思ひをして損をするばかりです。秩序をちゃんと守る大國民としての操成があつてこそ、いつも氣持よく、事が運ばれます。停車場の出札口や改札口では整列して順番を待ちませう。

きれいな車内らしい旅行——これは戦前の食べガラの後仕末です。御用人のどちらがお行儀がいいでせうか。

↑ 大のしい旅にゆかしい心——小さな坊ちゃん、小車やん、電車やバスの座席へのしがが、つて意外の風物にうち興じます。然し、靴穿きの機では脚席の座頭を汚したりして、思はず送客をかけることがありません。でなくとも座席を靴ブラフの代用にしてゐることになり、すなから側面でも脱は脱がせるか、カバール用意いたしませう。

↓ 世の中、また世帯辛い交又點で圓タクを切つてゐる。お客とあればすぐにも食ひつきがつかへます。運轉手も皆共に御注意。





一降り二乗り
三投車—
ラッシュ・アワーの
時はなほさらこの標
語を守りませう。

面倒くさくてもこ
れではいけない。道
路は社会の公共施設
です。

好ましい街頭風景の
一例

みんなの食堂 行
儀よく—列車食堂
での食事は楽しいも
のです。然し、限ら
れた食卓を長時間占
領することはつし
みませう。

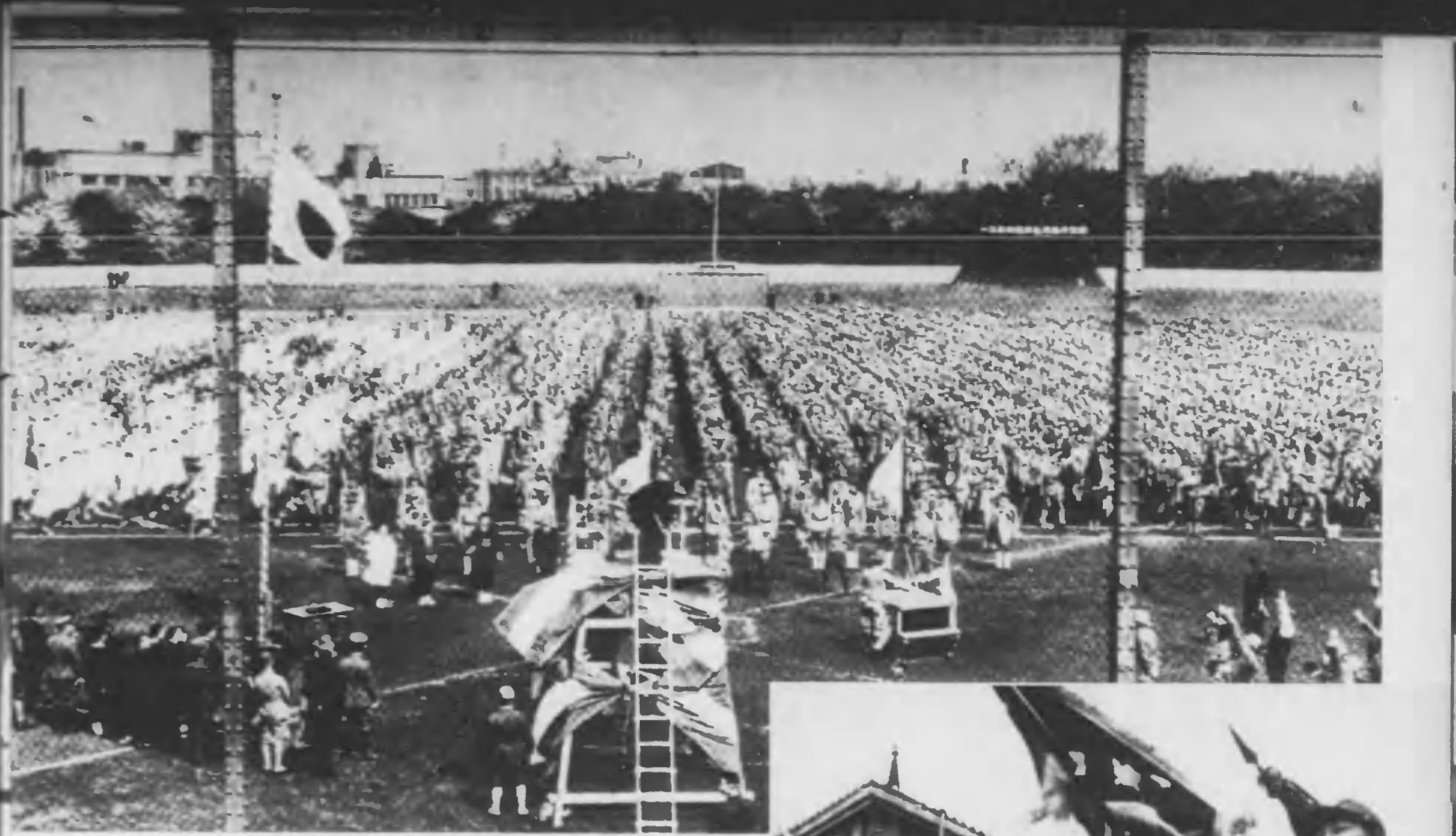
二等車に飲々乗りこ
んだ一紳士、顔の具合
も風采も盛々たるもの
—だがこんなさまで
は塞なします。

待つてみた電車に、
先を争つて乗りたいの
はだれしも同じこと。
一つ社会の人間です。
君もそうなら彼もそう
お互ひに持たねばな
らぬ、行儀秩序に思ひ
やり。

降りる人が降りきつ
てから、順序正しく乗
りませう。

みだすな公徳 旅の
恥 同席した婦人や
子供の前では好きな煙
草もなるべく遠慮しま
せう。





**見よ、試練の日本
銃後の力 神奈川縣**

四月三日、神武天皇御祭を期して、神奈川縣男女青年團五千人餘は午前八時神奈川公園及野毛山公園に集合、中井知事、非特臨時後援の責任を擔ふ者人の意見を宣示した。

臨時後援の責任を擔ふ者人の意見を宣示した。臨時後援の責任を擔ふ者人の意見を宣示した。臨時後援の責任を擔ふ者人の意見を宣示した。



上 頼母しくも愛國の熱にもえて集つた全神奈川の若人たち、當日の會場、海をわたつて春風の吹く横濱公園
中 榮光の國旗を先頭に、アスファルトを踏む靴音も力強く。
下 君が代の吹奏隊に大日登族は掲揚される。

**紀元二千六百年
奉祝準備
進む**

光輝ある紀元二千六百年はいよいよ二年の後に迫つた。政府では既に昭和十年十月一日、内閣に紀元二千六百年祝賀準備委員會を設けて、奉祝記念事業を國民的慶祝事業たしめやうと、色々調査準備を重ねた結果、祝賀、奉祝記念事業に關する種々の準備事項を決定した。昨年七月一日には紀元二千六百年祝賀準備委員會が、又同日、祝賀に關する事務、及び各種奉祝記念事業に關する事務を統括する爲に内閣に紀元二千六百年祝賀事務局を設けた。昨年十一月九日の紀元二千六百年祝賀準備委員會で決定された奉祝記念事業として――

一、横濱高等海峽及び三浦山東北陵の遺蹟發掘
二、神武天皇御祭の調査保存
三、神武天皇御祭の改良
四、日本美術博覽會の開催
五、東京大觀（假稱）の開催
六、日本文化大觀（假稱）の開催

各項目で日本美術博覽會以外の事業は紀元二千六百年奉祝會で實行する事と決定し、奉祝會は昭和十二年四月に創立された。五月十一日に第一回の理事會合同會を開き、七月十日、組織を財團法人と改め、七月十日には、秩父宮義仁親王殿下を總裁に奉戴し、總裁に内閣總理大臣、善長に徳川家義公親王、事業準備は今般々進行してゐる。尚紀元二千六百年奉祝會の事業經費は、總額壹千五萬圓、五百萬圓は政府補助金、五百萬圓は國民一贊の寄附金に依ることとなつてゐる。

淳和天皇御陵も地圖に見られる様な邊りな山地に在り、金井道は狹隘な里道にすぎない、これも改修される。



天武天皇、持統天皇御陵御陵には畏れ多くもこのやうに御根末な途道しか通じておかない。紀元二千六百年奉祝會ではこれを立派に改修することになった。



長くも秩父宮殿下を紀元二千六百年奉祝會總裁に奉戴する禮奉式並びに祝賀會は、四月十日若葉館明治神宮外苑競技場に於て盛大に舉行された。



神武天皇御陵現在の御陵参道では遺憾に思はれる點が少なくないので、こんど紀元二千六百年記念事業として大規模の擴張整備が行はれる。



寫眞週報

寫眞週報

本誌の綴りバカ

が出来るまで

穴明に縫綴る布の酒
 装、得し容収を分年々で領装な
 紙表案新の在自由自し外

寫眞週報

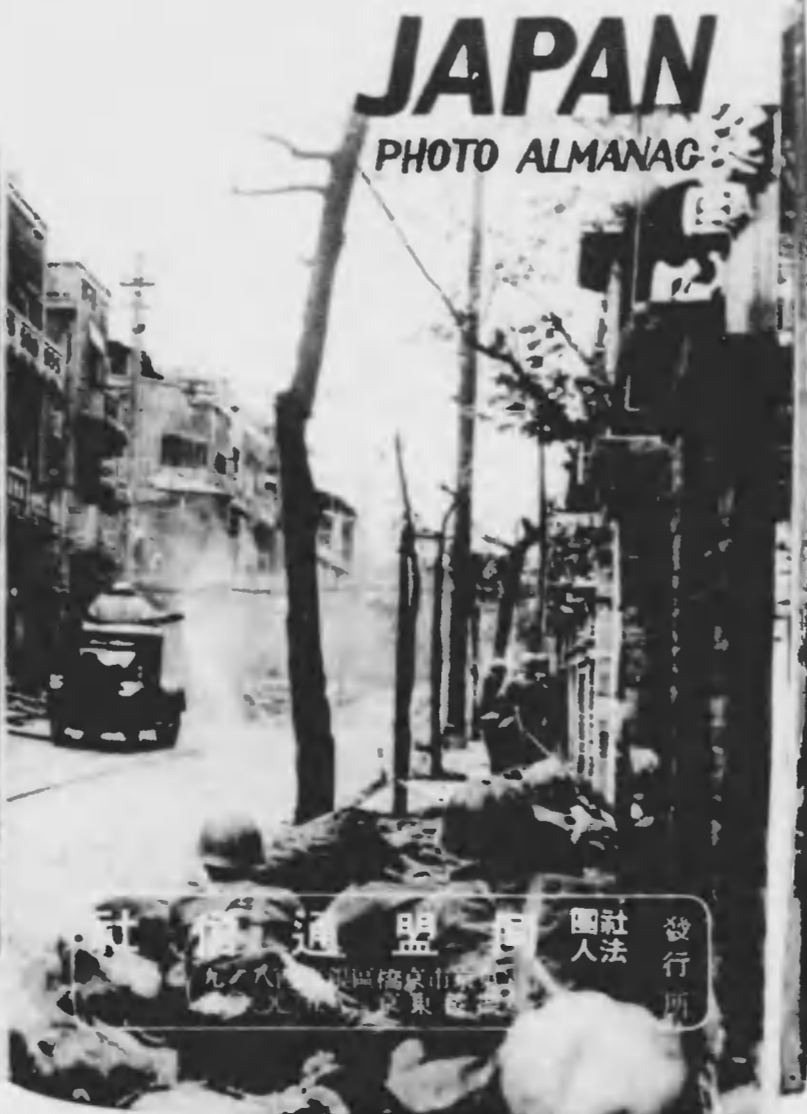


定價

一部 六十錢
 送料 六錢
 市内 十二錢
 地方 十二錢
 外地 廿七錢

東京市丸の内區有楽町一丁目二五番
 電話一四二七五番
 寫眞週報配送部
 全國各地官報販賣所
 東京都株式會社
 最寄書店・驛賣店
 各地新聞販賣所
 寫眞材料店

JAPAN PHOTO ALMANAC



一九二八年版
 ☆シャープ
 本年版は毎
 年世上に於ける重
 大なる出来事と歴
 史的的の觀念を起
 し全國有数新聞社
 の寫眞班に依つて得
 た記録寫眞中更に最
 も優秀なるものを選
 び、編纂せるもの
 である。

海彼の方



大分県立第一師範の園子
 は、三月十五日ゲルマン兵とヒトラー隊
 めての園子は、ゲルマン兵とヒトラー隊
 を退却するまで、ゲルマン兵とヒトラー隊
 を退却するまで、ゲルマン兵とヒトラー隊
 を退却するまで、ゲルマン兵とヒトラー隊



ブレネルに於ける
 ブレネルに於ける、三月十六日下院に於て、
 ブレネルに於ける、三月十六日下院に於て、
 ブレネルに於ける、三月十六日下院に於て、
 ブレネルに於ける、三月十六日下院に於て、



用ひたり、英國香角の
 用ひたり、英國香角の、三月十六日下院に於て、
 用ひたり、英國香角の、三月十六日下院に於て、
 用ひたり、英國香角の、三月十六日下院に於て、
 用ひたり、英國香角の、三月十六日下院に於て、



寫眞集規定
 本誌は「寫眞集」の一助にもと
 考へ、出来る限り紙面を開放し、
 カメラの動員、優秀な技術を持つ
 者、寫眞は内外、國策の重
 要に關するものならば何れもよい、
 例へば、田畑、工場、
 軍隊、學校など、國策に關するもの、
 及び、國民精神、或は、
 國策の推進に關するもの、
 であらう。一枚の寫眞でも、
 國策の推進に關するもの、
 ならば、本誌に採用するもの、
 である。但し、
 寫眞は、一切返却せず、
 内閣情報部



所 込 申	價 定	明和十三年四月三日印刷發行
寫眞週報配送部 東京市丸の内區有楽町一丁目二五番 電話一四二七五番	一ケ部 十錢 一ケ年 (前金) 四圓八十錢	印刷所 大日本印刷株式會社 東京市牛込區市谷 電話一四二七五番
全國各地官報販賣所 東京都株式會社 最寄書店・驛賣店 各地新聞販賣所 寫眞材料店	一ケ年 (前金) 四圓八十錢 一ケ年分未滿配送部希望の方は一ケ年分十錢の割合を以て前金を添へ御申込み下さい	發行所 内閣情報部 東京市丸の内區有楽町一丁目二五番 電話一四二七五番

今週のキヤメラ
表紙 (前掲) 特寫 櫻花のもと 望月文吾 水戸へに眠る 望月文吾 蘇州方面 讀賣新聞社 敵の鼓動を聞く 讀賣新聞社 通信の回顧 通信博物館 黒潮に驚へる 特寫 守れ公體 鐵道省 見よ試験の日本 丸茂價一 銃後の力 丸茂價一 奉祝準備進む 丸茂價一 海の彼方 同閣通信社

東京週報

昭和十三年三月十日 第三種郵便物認可
昭和十三年四月二十日發行 (毎週一即水曜日發行) 第十號

マツダ真空管

興せよ 産業
伸せよ 国力!



新マツダランプ

(本書の大きさは規定規格A4・「週報」倍判)